



テラスプロジェクト進行中！ ～災害に強いひとづくりを目指して～



◆テラスプロジェクトって何？

町では、いつ起こるかわからない災害に備えるため、事前の防災啓発・普及活動や地域の安全を24時間見守る体制として「幸田町安全テラスセンター24（以下「テラス」）」の設置に向けたプロジェクトを推進しています。

テラスが目指すものは「災害に強いひとづくり」です！ 町で大きな災害が発生しても、事前の対策が機能して、町民の皆さんが落ち着いて行動し、お互いに助け合うことによって、被害の軽減につなげていきます。

テラスは、令和3年度から本格的に活動する予定ですが、テラスの基本方針や本年度中の試行的な取り組みとその取り組みに関わった人たちをご紹介します。

テラスの戦略

テラスの基本方針

人のつながりを生み、支えあう地域社会を育てる

地域には多様な活動をするグループや事業所もあり、それぞれの得意分野を生かした活動によって、地域全体が豊かで安全になっていくことが期待されます。

テラスは、このような多様な地域活動の担い手や防災・減災の意識の高い人たちが「つながる」活動に取り組んでいきます。テラス活動（防災啓発・普及）は、防災・減災を学び合うことを基本として、事業を推進していきます。

取り組みを推進するための切り口

1 地域のつながり

災害時には地域で助け合い、協力することが困難に立ち向かう力となります。日頃から地域住民が協力できる関係を築き、多様な地域活動の担い手や世代がつながるよう支援することで、日頃の地域力と、災害時の対応力も高めていきます。

◆「お互いさま」の関係を築く、防災を通じたコミュニケーションづくり
◆地域の変化や災害に積極的に対応できる体制づくり



2 継続的な学び

住民の防災意識を高めるため、防災・減災に関する学びの場を作ります。年齢、性別にとらわれず、防災・減災に関する基本的な知識を習得することと体験や訓練を通じて行動力を養い、災害に強い人材を育成します。

◆災害時に自ら判断し、行動できる人材の育成
◆小中学校教育の中で、町の地域特性を踏まえた災害を学ぶ場を提供することによる、防災教育のレベルアップへの協力
◆いつでも、どこでも使える学びの場の創出

3 日常からできる備え

いつ起こるかわからない災害に備えるために、日頃の生活の中へ防災のエッセンスを加えるとともに、素早く災害対応ができる組織的な備えを推進します。

◆日頃の生活の中で、災害に備える家庭の取り組み（住宅の耐震化、家具の固定や備蓄）へのサポート
◆24時間まちの安全安心を見守る（まちの安全を照らす）体制づくりおよび初動体制づくり



↑模型（ピノキオおるる）を使った住宅耐震化啓発（幸田建築行政会協力）

活動事例



平常時の活動

防災活動を支援するためのコンテンツを提供

地域に向き活動を行うことにより、多くの人を巻き込みながら防災意識の高い人同士が「つながる」ことを目指します。



災害時の行動

平常時に培ったつながりで自分や家族を守り、災害対応を支援

地域と役場が、迅速かつ的確な災害対応に移行できるよう、災害対策本部の準備・補助的な初動の役割をもって、災害対応を支援します。

【テラス活動を進める5つのポイント】

- 女性の視点を重視した防災啓発活動の推進
- 住民の互助、共助に根差した防災交流の拠点づくり
- 地域による要配慮者の支援方法の確立
- 中学生が安全を確保しつつ支援活動もできる防災学習の推進
- いつ災害が発生しても、行政が迅速に災害対応できるような体制づくりの推進

テラスの活動と体制

防災啓発・普及活動が「テラス活動」

テラス活動の主体は、テラスをはじめ、地域・住民、事業者、学校など防災に関わる人たちです。テラスサポーターは、テラス活動に関わり「得意なこと」「持っているスキル」「取り組んでいること」に着目し、平常時の活動の中でつながり、災害時に互いに支え合うことで防災力向上を果たすためのコンテンツを作成し、展開していきます。

*テラスサポーター：テラスとともに防災啓発・普及活動に関わる人

テラスについて、
防災の専門家にお話を伺いました

幸田町安全テラスセンター24
設置専門委員会 委員長
鍵屋 一さん
(跡見学園女子大学 教授)



毎年、全国各地で大規模な災害が発生しているながら、家庭や地域レベルでの防災対策がなかなか進まない状況が見受けられます。また、役場をはじめとした行政機関も万全の態勢が整っているかといえば、まだまだ十分とは言えません。

でも、災害は待つてくれません。いつ起こるかわからない災害に対し、ただ足踏みをしているのではなく、前に進んでいこうとチャレンジしていくことが必要だと思っています。

テラスの取り組みは、まさに「チャレンジ」です。全国的にも、防災を学ぶことができる「防災学習センター」のような施設は数多くあります。しかし、住民防災の核となる拠点・組織は珍しく、また大変難しいテーマに取り組んでいます。

ただ、目指すべきことはシンプルで、「災害に強いひとをつくること」です。日頃の生活の中で防災のことを少し意識して、できることからやってみる、そんな積み重ねがいつしか災害への備えにつながり、「災害に強いひと」になっ

ていくイメージです。このことが、危機管理意識を高め、いざというときに*正常性バイアスに陥ることなく、「避難スイッチ」が入るなど、災害時の正しい行動にもつながっていきます。

家庭や個人（自助）の対策ができてくると自分の住む地域や職場の対策も気になるところです。災害直後、自分や家族が助かったら、周りの困っている人を助けていくこと（共助）が重要です。避難所のみでなく、自宅で避難生活を送る人もいるので、お互いが声を掛け合い、支え合いながら難局を乗り切ることで、早期に「元気なまち幸田」になっていくことでしょう。

令和3年度から、テラスは本格的に稼働して、さまざまな場所に出向いて活動を進めていきます。まずは、テラスを知っていただき、防災に関する啓発・普及活動にぜひ参加してください。また、皆さんの防災に関するお悩みにも、テラス職員のバックアップをはじめ、関係者や専門家とつながって解決を目指します。関心のある人は、テラスサポーターになって一緒に活躍してくださいとうれしく思います。

このようなひと・まちづくりを推進するにあたり、テラスが平常時は防災・減災を学び、触れる「道場」のような場所に、災害時はまちの安全を「照らす」存在としての役割を担ってくださることを期待します。

*正常性バイアス…自分に都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう心理機能のこと。

本格稼働に向けて、今年度はテラスとしてどんな活動ができるかを確認するため、いくつかの試行的取り組みを学校、区、事業者と実施しました。テラスとともに防災啓発・普及活動を行った人たちにインタビューをしました。

中学校での防災学習の推進

幸田中学校 教諭
鈴木 祥之 さん



本校では、「守られる人から守る人へ」仲間・家族・地域の人たちの命も守る生徒を育てる」をテーマに防災学習を進めています。特に昨年は、東日本大震災の「釜石の出来事（奇跡）」として知られる岩手県釜石市に3年生80人が訪問しました。震災当時中学3年生で、避難の際に活躍された菊池のどかさんのお話をお聞きし、どんな状況下でもお互いが助け合い、「生きる」ための行動の大切さを学ばせていただきました。また、釜石東中学校も訪問し、復興ソングである「ライジングサン」のダン

「ライジングサン」のダン



↑避難所宿泊体験の様子

スや合唱で交流をしました。わずかな時間でしたが、生徒たちの心を動かす貴重な経験になりました。本年度は、1年生が新型コロナウイルス感染症対策を意識した避難所宿泊体験を本校体育館で行いました。実際の避難所に近い環境を経験したことで、いざという時の、今後の防災対策に役立ててくれることを期待しています。

このような活動を進めるにあたって、テラスの人からさまざまなバックアップをいただきました。釜石訪問のご協力や避難所体験のノウハウなど、学校だけではやりきれない部分を補っていただいています。防災学習を通じて、多方面の人のつながりを実感しています。

幸田で育った中学生が、防災学習を通じて、人のつながりに心から感謝し、どんな状況においても「生きる」強さを持ち、「守られる人から守る人」となり幸田町で活躍してくれることを願っています。



↑チャリティー募金とチャリティーTシャツを釜石東中学校生徒に渡す様子

豪雨災害から命を守るために

岩堀区長 本多 太三さん

岩堀区では平成12年の東海豪雨、平成20年8月末豪雨時において広田川の決壊による浸水被害を受けた過去があります。

そのため、浸水エリアに住む区民がどうしたら安全に素早く避難できるのかと常々考えていました。

そのような中でテラスの人から国の推奨する避難行動を時系列的にまとめた「マイ・タイムライン」作成の提案を受け、検討会を重ねることになりました。

検討会では避難のタイミングや避難先、避難経路についての議論や、実際にまち歩きをしながら現場を見ることによりさまざまなことに気が付きました。

私自身も今回の検討会を通じて広田川と住宅地の高低差などを確認することで水の流れについてイメージすることができました。

今後の課題としては、より多くの人に「マイ・タイムライン」を作成してもらえような展開方法と重要性の周知と考えています。

現在コロナ禍ということもあり、思うような活動ができず、不安はどうしても残りますが、コロナ禍をチャンスと捉えて、このような状況であってもできることを進めていきたいと思えます。



↑検討会の様子(中央：岩堀区長)



↑区の防災リーダーや地域住民などが参加した「防災まち歩き」

家庭での防災対策を少しでも多くの人に進めてほしいことと、日常の生活の中で防災に触れてもらう機会として、日頃から多くの人が集まるスーパーを会場とした防災啓発を行いました。今年は、町内で防災応援協定を締結している3店舗（スーパーセンターオークワ幸田店、ピアゴ幸田店、マックスバリュ幸田店）にご協力をいただきました。

【スーパーでの活動代表】
地域の事業所としてできること

マックスバリュ幸田店
店長 清野 英明 さん



幸田町安全テラスセンター24の基本方針である防災・減災を学び合うことで「ひとのつながりを生み、支え合う地域社会を育てる」に賛同し、マックスバリュ幸田店は町と協働で防災イベントを開催しました。今回のイベントではご来店されたお客さまにご家庭での防災の取り組みとして「ローリングストック」をご紹介します。

ローリングストックとは「日常的に食べて買い足す」を繰り返し、非常食として備えることです。非常食という「気が付いたら賞味期限が大幅に過ぎていて全て廃棄した」といった失敗が起ちがちなです。ローリングストックは日常の食品を多めに買い、切らさずに買い足すという行為を繰り返し、常に家庭に新しい食品が備蓄される方法です。この方法なら普段から食べているものが災害時の食卓に並び、安心して食事を摂ることが出来ます。

今後町内の「災害に強いひとづくり」のお役に立つ取り組みを続けていきたいと思えます。

小さなお子さんのいるご家庭を対象とした防災イベントを開催します

小さなお子さんを持つお父さん、お母さん。お子さんを災害から守る対策や備えは万全ですか？

テラスでは、子育て中のご家庭向け防災イベントを開催します。

家庭やわが子を守る防災対策を学ぶだけでなく、このイベントを通じて、困ったときに助け合えるネットワークづくりができたらしと思っています。ご興味のある人はぜひご参加ください。

- と き 令和3年1月13日㊦ 午前10時～正午
- と ころ 上六栗子育て支援センター（くりくりひろば）
- 内 容 災害からわが子を守る対策や事前の備えについて
- 対 象 小さなお子さんがいて、防災対策に関心のある人
- 定 員 20組（親子で参加できます）
- 講 師 防災ママかきつばた（乳幼児親子に向けて防災啓発をしている団体）
- 受 講 料 無料
- そのほか 参加者には、防災啓発品をプレゼント！
- 申 込 み 12月1日㊦から25日㊧までに上六栗子育て支援センター ☎(0564)62-8333へお申し込みください。



↑防災ママかきつばたの皆さん

テラスの取り組みは、愛知県の「令和2年度元気な愛知の市町村づくり補助金（チャレンジ枠）」を受けて、「官学民連携による地域の防災力向上事業」として推進しています。



▲テラスのフェイスブックおよびインスタグラムは、防災安全課が運営しています。フェイスブックについては、「幸田町役場フェイスブック運用方針」に、インスタグラムについては、「#幸田町宣伝部のルール」に沿って運用しています。詳しくは、町ホームページにご確認ください。



▲幸田テラスのインスタグラムページはこちら（#幸田テラス）



▲幸田テラスのフェイスブックページはこちら



テラスのSNSを開設！

テラスの取り組みやイベント情報などを発信するため、フェイスブックとインスタグラムを「幸田テラス」で登録しています。

まずはテラスの活動について、知っていただきたいと思しますので、友達申請やフォローをお願いします。

問合せ 防災安全課テラス準備グループ ☎(0564)62-1111(内線373) FAX(0564)63-5139